[呼鍵] 高31.5×幅16.5×高行17.5cm

西中千人 ガラス展
—呼鍵と光の庭—

【会期】 6月17日(水)–6月23日(火)
【会場】 日本橋高島屋 6階美術画廊・美術工芸サロン
中央区日本橋2-4-1
☎03(3211)4111
ギャラリートーク 日時：6月20日(土)午後3時より
対談：藤村美術商会 前代表村手義夫×西中千人氏

一度作った器を砕き割り、再び溶かし合わせて蘇ってガラスの呼鍵。ヒビに美を見出し、「命の宿るかと脈打ち鼓動する西中千人独自の表現として、欧米でも高い評価を得ている。

炎が石や煉にガラスを用いて「月の面」は、自然と人間のあくへ今間を結ぶ心のための新しい窓のアプローチである。異質なに「ガラスの呼鍵」、「光の庭」という伝統から生まれた現代の日本の美の表現をぜひご覧いただきたい。

スペシャル対談

森 孝一 × 西中千人

「ガラスの儚さと力強さで新しい日本の美を表現したい」と、金細の美雲讃を確に「ガラスの呼鍵」で独自の表現を追求する西中千人が、美術評論家の森孝一氏と「縄文」の美学が生まれた背景にある日本文化の思想と、作家の世界観、そして哲学を語り合った。

もり・こういち
1935年東京都生まれ。美術評論家、歌人。武蔵工科大学非常勤講師。
『縄文の美学』（講談社）、『縄文は世界を救う』（ポプラ社）、『縄文の美術』（東京美術）、『縄文は日本人のルーツ』（ベストセラーズ）、『縄文に夢の美術』（東京美術）、『縄文は日本人の原風景』（講談社文庫）、『神々の旅』（日本放送）ほか。

にしなか・ゆきと
1964年東京都生まれ。1989年東京都立大学卒業。東京ミュ、カリフォルニア芸大で学ぶ。ガラスアートを学ぶ。海外のアートフェア「ICFF」、「ICFF」（ニューヨーク）、「ICFF」（ロンドン）、「ICFF」（ドバイ）、「ICFF」（ロンドン）、「ICFF」（ドバイ）、「ICFF」（ロンドン）、「ICFF」（ドバイ